



子どもの発達とおもちゃ



子どもにとっておもちゃとは

「子どもにとっては遊ぶことが仕事だ。」と言われる事があります。それは単に子どもは遊ぶものだ、というイメージから言われているわけではありません。子どもにとって“遊び”はその子の成長にとっても必要な要素なのです。

子どもは“遊び”を通して、様々な能力を習得したり、更にそれを磨いたりしています。“遊び”の質が良ければ、その分、子どもの発達にも良い影響を与えられるのです。おもちゃはその質の良い“遊び”を生む1つのツールだと考えて頂ければと思います。

発達とおもちゃ

人間には、新しく獲得した能力をくり返し行いたくなるという習性があります。それは、獲得した能力を確実に自分のものにするためです。もしかしたら「初めて自転車（一輪車）に乗れるようになった時は嬉しくて無性に乗りたくなった」なんて人も多いのではないのでしょうか？

赤ちゃんと言えばもっと単純な事です。手の機能が発達してくる時期なら、握ったり触ったりする遊びに対する興味関心が増し、それを繰り返し行おうとします。子どもの興味関心を満たし、繰り返しを十分に楽しめる環境を整えてあげる事で子どもは手の機能をより高める事が出来ます。そういった環境を整えるのに最適なものの一つがおもちゃなのです。

子どもの発達に合った遊び

赤ちゃんにどんなことをしてあげればいいのか、何をしてあげたら喜ぶのか、などがよりわかってくると育児がより楽しくなってきます。発達に合わせた遊びやおもちゃのポイントをまとめたので参考にしてみてくださいね。

0か月～4か月頃

人と触れ合いたい・・・だっこ／ほほえみ／語りかけ
たくさん見たり聞いたりしたい・・・音の出るおもちゃ(ガラガラ)／鮮やかな色のおもちゃ(重ねカップ→大きさの違うカップを重ねるおもちゃ)

4か月～7か月頃

色んな物に関わりたい・・・触る、舐める／手を伸ばして触れる場所におもちゃを置く
人とのやり取りが嬉しい・・・くすぐり遊び(1本橋こちょこちょなどのふれあい遊び)／どうぞありがとう

7か月～10か月頃

いたずら大好き・・・引っ張り出す(いたずらボックス)／落とす(ポットン落とし→中央を丸く、くり抜いたタッパーのふたにペットボトルキャップなどを落とすおもちゃ)／入れる(型はめ)
指先が使えるように・・・握る(なぐり描き)・つまむ(小さなものを)／ボールを転がす／打ち合わせる

10か月～12か月頃

全身を使いたい・・・立つ／つたい歩き／歩く／投げる／マット山(マットで山などを作り、越えていく遊び→布団でも代用できます)／音楽に合わせて踊る
絵本大好き・・・ページをめくる／飽きずに見られる(読み聞かせ)

